

様式2

令和2年度学校自己評価表(年度当初)

鳥取県立倉吉西高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	(1)道徳教育の充実 ・高校生として望ましい規範意識、生活習慣を確立する。 ・自己肯定感を高めるとともに、他者に対する思いやりなど、周囲と豊かな人間関係を構築することのできる豊かな心を育む。 (2)キャリア教育の充実 ・社会的問題に関心を持ち、社会の一員であることを自覚させる。 ・探究活動をととして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。 ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。 (3)高い志を有し、学ぶ意欲を向上 ・将来の生き方を考えさせることで主体的に学ぶ姿勢を涵養するとともに、社会問題の解決に向けて必要となる確かな学力を育成する。 ・授業をととして論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を高める。	今年度の 重点目標	(1)将来を見越した生活習慣の確立 (2)キャリア教育の充実 (3)主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上 (4)情報収集、情報発信の充実
-------------------	---	--------------	--

		年 度 当 初		評価結果()月			
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
将来を見越した生活習慣の確立	①社会や人とのつながりを意識した生活習慣と表現力を身につける	【生活支援】 ・校舎内では自分から挨拶できるが、校外での挨拶は自分からできる生徒が少ない。好感の持てる挨拶については依然ハードルが高い。 ・ルールを守った生活を心掛けている生徒が多い中、スマホのルールを守れない生徒がいる。 ・TPOを意識したり、自分の置かれている立場を考えて行動出来ない場面がある。 ・正しい服装を意識している者が多い中、特定の生徒の意識が低い。 ・メモを取るなどとしてスケジュール管理の出来る生徒が少ない。	・相手の目を見て口角を上げ好感の持てる挨拶や返事が積極的にできる。 ・TPOを意識して、相手軸に立った行動をとることができる。 ・本校の一員として、ルールを守った生活や自分の役割を果たすことができる。 ・人格の向上を目指して、失敗をチャンスに変える思考ができる。 ・スケジュール管理が出来、見通しを持った余裕ある行動ができる。 ・通院以外の遅刻者ののべ人数を年間150名以内とする。 ☆日常的な生徒観察により評価する。 ☆年間予鈴後登校者数・遅刻者数を目安に評価する。	・積極的で意欲的な行動や素直な態度に気付いたら声をかけ、褒めて育てる。 ・よりレベルの高い挨拶をすることの意味や大切さを、ステージやホーム、授業などで繰り返し伝えていく。 ・失敗をした生徒に対し、様々な立場から丁寧に励ます。 ・次なるステップが自分で明確にできるよう、手帳などにメモや記録することを指導する。 ・生徒手帳の復活を検討する。 ・月ごとの遅刻者数を見るを化し、生徒に自覚を促す。			
		【S1】 ・関わりのある教員には挨拶するが、関わりのない教員には挨拶をしない生徒が少なくない。 ・授業や集会の内容を、自らの成長や将来の姿とつなげて考えることができる生徒が少ない。 ・場にふさわしい行動がとれない場面がある。	・来客も含めて、校内で対面するすべての大人に礼儀正しい挨拶ができる。 ・教員や講師によって発信された情報を的確に受容し、自分の将来像をイメージしながら成長の糧とすることができる。また、発信者に対して質問や意見を述べるなど、適切な反応を示すことができる。 ・倉吉西高校の一員であるという自覚を持ち、校内はもちろん、地域の中においてもTPOを意識した行動をとることができる。 ☆生活の軌跡、日常の生徒観察により評価する。	・挨拶することの意味をステージやホームで継続的に伝えていく。 ・学ぶことの目的や意義、社会で生きていくために必要なことを適宜伝えていく。また、発表しやすい雰囲気作りや発表の機会を多く設定する。 ・集団を意識させ、個の行動が集団に影響を及ぼすことを自覚させる。間違った行動をとった場合は、時を逃さず正していく。			
		【S2】 ・挨拶ができる、時間を守る、学習環境を整えるといった行動は身に付きつつあるが、自らの生活を正す力を身に付けている生徒は少ない。 ・自分本位ではなく、相手や場を意識した言動ができる。	・自分で生活をコントロールする力を身に付けている。 ・自分の気持ちや感情を、TPOに応じて適切に表現することができる。 ☆生活の軌跡、日常の生徒観察により評価する	・ステージ集会やホームルーム、面談等で話をするとともに、日常生活の中での指導を継続していく。 ・生活の軌跡を利用し、生徒の生活について把握、指導を行うとともに、自己管理する力を高めていく。			
		【S3】 ・挨拶や時間を意識した行動は身に付きつつあるが、分離礼や置かれている状況、立場を意識した行動をとれる生徒は少ない。 ・4点固定など生活のリズムが確立している生徒は少ないが、手帳等を活用し、意識し始めた生徒が増えつつある。	・他者の存在を軸とし、自らの置かれている状況、立場を意識した行動や発言をすることができる。 ・生活のリズムを確立し、体調管理、スケジュール管理を自ら行うことができる。 ☆生活の軌跡、日常の生徒観察により評価する	・ステージ集会やホームルーム、面談等で話をするとともに、日常生活の中での指導を継続していく。 ・生活の軌跡を利用し、生徒の生活について把握、指導を行うとともに、手帳の利用を推進し、自己管理する力を高めていく。			
	②講演会・生徒会活動等を通して学んだことを校内の活動に応用する	【生活支援】 ・時間通りに集合したり、静かに話を聴く習慣は出来ているが、聞いた話や生徒会活動で体験したことを、その後の自分の生活に活かし行動化出来る生徒は少ない。	・前で話している人を見て、メモを取りながら話を聴くことができるとともに、積極的に自ら質問や発言をすることが出来る。 ・リーダーやリーダーを支える立場など、自分の役割を自覚し積極的に行動できる。	・授業も含め日常的に自分の考えを表出できるように、生徒が発言する機会を数多く設定する。 ・講演や行事に対して、自分の行動を振り返り、自分の課題と対策を記録するよう指導する。			
キャリア教育の充実	①チャレンジグループ活動を通して、興味関心から進路決定までのプロセスを確立する	【キャリア支援】 ・説明会や講演会、探究活動の内容を、ノートに記録している。 ・フィールドワークやチャレンジグループ活動が、進路について考える機会となっている。 ・進路志望をもとに各グループに所属し探究活動を行い、進路意識が高まった結果、自己実現につながっている生徒もいる。一方で、進路と探究活動が一致しない、進路志望が定まらず探究活動の深化が見られない生徒もいる。	・チャレンジノートに記録する習慣が身についており、考えや感想をまとめることができる。 ・大学・学部、職業に関する理解を深め、テーマ設定や研究活動が自らの進路につながっている。 ・フィールドワークなどの研究成果をまとめ、情報機器を活用して校内の発表に限らず校外でプレゼンテーションを行っている。 ☆S3のチャレンジグループ活動のアンケートにおいて、「積極的に取り組めたか」、「講義や施設見学により仕事や施設の役割などの理解を深めることができたか」、「さらに学びたい、知りたいなどの知的好奇心が深まった」、「進路目標が決まったり、目標に対する情熱が高まったなど、影響を与えた」の各質問項目いずれにおいても、6割以上の生徒が「とても思う」「やや思う」と回答している。	・手帳等を活用し、普段からメモをとる習慣を身につけさせる。 ・担任やグループ担当教員による個人面談をより充実させ、テーマや進路についてさまざまな角度から指導する。 ・進路とチャレンジグループ活動について、卒業生に体験談を語ってもらい、進路意識を向上させる。			
		【S1】 ・チャレンジグループ活動に対する意欲はあるが、積極的に取り組もうとする生徒はまだ少ない。	・チャレンジグループ活動が、現在の自分と未来の自分とをつなげるための取り組みとなっている。さらに、進路開拓のための情報収集など、目標達成のために必要な具体的取り組みを主体的に行っている。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する。	・CHALLENGE NOTEを有効活用し、様々な体験を積み上げていく。 ・記録の質が上がるよう指導していく。			
		【S2】 ・S1次に決定した研究テーマをもとに、情報の収集、分析方法について検討し、計画的に探究活動を進めようとしている生徒は多くない。	・探究活動をととして、研究テーマに係る問題意識を育み、その解決に向けて情報収集、整理・分析し、多角的に方策を考えている。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	S3の発表、講演会、施設・企業等の訪問の機会をとらえ、社会に対する視野を広げ、個別面談により、進路に関連したテーマ設定、進捗状況確認や個別指導を適宜行う。			
		【S3】 ・自らの探究のテーマに沿ってフィールドワークを行い、発表に向けて準備を進めている。 ・フィールドワーク関西など、外部との関わりにより視野を広げ、進路との関連も意識し始めた生徒が増えてきている。 ・探究が深まってきている生徒が増えてきているが、一方で自らの進路と探究のテーマとの関連が乏しい生徒も見られる。	・チャレンジグループ活動での探究、発表を通して自らの進路や学びに対しての意識が高まっている。 ・社会に対して課題意識を持ち、将来、社会に貢献しようとする態度が身についている。 ☆CHALLENGE NOTE及び発表により評価する	・個人面談を実施し、活動の進捗状況を把握するとともに、進路と探究内容が関連するよう指導・助言を与える。 ・新聞活用(掲示)等、社会に対して目を向ける機会を設定する。			
	②フィールドワーク鳥取等の情報収集を通して、ふるさとの素晴らしさを学び、郷土への愛着を高める	【S1】 ・鳥取の産業・民俗・伝統や文化などについての関心度は低く、ふるさとの良さを他者へアピールできる生徒は多くない。	・ふるさとの素晴らしさを理解しており、ふるさにと誇りを持ち、地元社会に貢献したいという姿勢が見られる。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する。 ☆アンケート調査の結果で評価する。	・適切な情報提供をしながら、計画的に事前学習に取り組ませる。フィールドワーク終了後には振り返りをさせ、ステージ全体で報告会を実施することによって、鳥取の魅力等について各グループからの情報を共有させる。 ・ボランティア活動への参加を促し、報告書を提出させるとともにステージ全体で報告会を実施する。			

評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況		評価	改善方策
主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上	①授業改善や理解度の振り返り等の集約にICT機器を活用する	【学習企画】 ・対話をおとし自身の考えを見出し表現することのできる生徒が徐々にではあるが増えてきている。他に依存してしまい自分の考えが述べられない生徒もいる。 ・与えられた課題を自分の力で解く生徒もステージが上がるにつれて増え、さらに、与えられたもの以外に自発的な課題に取り組む生徒も出てきているが、まだ一部である。 ・プロジェクター等従来の機器については、ほぼすべての教員が活用している。タブレットに馴染みのなかった教員も使い慣れた先生に使い方を尋ねたりしているところ。 ・生徒授業アンケートの目標値に関して、全体では、項目3を除き、「はい」の回答が昨年度より微増。経年変化を見ても、徐々に「はい」の答えが増えている。項目1、2に関しては「はい」が80%を超えた。ステージ別で見ると、現S2が昨年度S1に対して、「はい」の回答が全体的に減っている。	・生徒自身が考え、表現する機会をさらに増やすなど生徒の自発性、積極性を引き出す授業を行い、生徒のアウトプットの機会を増やす。 ・授業に主体的に参加するために、実のある主体的な家庭学習を行う時間が確保できている。 ・客観的な思考及び判断ができる。 ☆生徒授業アンケート:1～5の各項目について、前年比10%アップまたは80%以上。 1 思考・判断・表現を求める授業過程 2 アクティブラーニングの視点 3 発問の工夫 4 自然・社会等身の回りの事象とのつながり 5 関心・意欲の喚起	・校内研究授業を実施し、授業後には教員全員参加の研究協議を行って工夫した点や成果についての情報共有を行い、得たものを授業で活用し、生徒に還元してい。 ・考査の問題も「思考」「判断」「表現(論述)」を意識した出題に努める。 ・授業づくりのヒントとなるように、ICTを使った授業振り返りの方法等のデータを蓄積していく。 ・生活の軌跡を利用して面談を実施する。 ・具体的な生活時間を提示する。				
	②学習アプリの活用を図り、家庭学習を充実させる	【学習企画】 ・年度初めに導入し、使用についてはこれからの状態である。 ・家庭学習時間の目標値に関して、学習習慣の定着は生徒による個人差が大きい。 - S1:家庭学習時間2時間以上は8、9、11月を除いて未達成(通年平均55%) - S2:同上2時間半以上達成は6、8、9、11月のみ(通年平均48%) - S3:同上5時間以上32%(ただし、6月以降) いずれも目標は達成していない。	・長期休業中の課題の提示、進捗状況のチェックなどに活用できている。 ・急な連絡などに活用できている。 ・臨時休業などに対応するための動画配信などの研修を行い、教員が手法についての基礎知識を有している。 ・学習アプリの使用方法を全職員が会得しており、有効に活用できている。 ・生徒、教員の情報モラルが形成されている。 ・家庭学習時間の目標値 - S1:2時間以上の生徒が継続して70%以上。 - S2:2時間半以上の生徒が継続して70%以上。 - S3:6月以降5時間以上の生徒が50%以上。 ☆生活の軌跡の記録で評価する。	・必要に応じて、研修会を実施する。 ・生徒個々のネットワーク環境を把握し、必要に応じて、フォローできる体制をつくる。 ・学習アプリの使用例や、各教員の工夫について、情報が共有できるように研修などを随時行う。 ・S1・2については、ステージと協力し、家庭学習時間目標値の達成者を6割から始めるとともに、1時間未満の生徒をなくすよう面談等の充実を図る。				
		【S1】 ・スマホ等による動画閲覧には精通しているものの、学力向上のために学習アプリを積極的に利用している生徒は少ない。	・授業の予習や復習、課題への取り組みが日常化されており、さらに自らの弱点科目を克服したり、興味関心のある分野を探究したりするために、意欲的に学習アプリを活用し、適切な家庭学習時間を維持している。 ☆生活の軌跡の記録、考査や模試の成績で評価する。	・生活の軌跡や面談等により、学習時間・学習方法、学習内容を確認し、必要であれば改善を促す。 ・ステージ会等で生徒情報を共有し、適切な指導を加える。				
		【S2】 ・多くの生徒の学習習慣は定着しつつあり、与えられた課題に対しては取組むことができるが、学習アプリの利用頻度が低い生徒がいる。自ら計画を立て、工夫して学習に取り組む生徒は少ない。	・進路目標を明確に持ち、家庭学習で計画的に学習アプリを活用していることが習慣化されている。 ☆生活の軌跡、学習アプリ活用状況により評価する。	・定期的に活用時間を確認する。 ・面談、保護者懇談等の機会をとらえ、現状分析と目標設定を行い、自らの課題に対して前向きに取り組めるように個別指導を行う。				
		【S3】 ・進路に対する意識は高まりつつあり、年度末には家庭学習時間増加の傾向が見られたが、1時間/1日平均に満たない生徒も数人見られる。 ・学習アプリを3月末に導入し、積極的に利用している生徒も見られるが、継続した取り組みになっていない生徒が多い。	・進路目標に向けて、各自がスケジュール管理を行い、隙間時間の学習や家庭学習を充実させている。 ・定期考査や模試を活用し、PDCAサイクルを実践し、学力を向上させる。 ・自らの課題を明らかにし、学習アプリを効果的に活用している。 ☆生活の軌跡、活動振り返りシート、学習アプリ活用状況により評価する	・定期考査や模試の結果をもとに、各自が自分の状況を分析し、学習に繋がるように面談指導を行う。 ・学習アプリの活用状況を把握し、適切な利用方法について面談指導により助言していく。				
	③シラバスの進捗状況を確認し、新入試に対応した学力の定着を図る	【学習企画】 ・学習企画委員会で、不定期にシラバスの進捗状況を確認しており、おおむね達成されている。(臨時休業による遅れは除外する) ・授業や定期考査の問題など、新入試を意識した工夫がなされ始めている。	・シラバスに準じた進捗状況が定期的に確認されている。 ・自分の考えた道筋を的確に表現できる記述力が身についている。 ・英語のスピーキングに対応した授業がなされている。 ・新学習指導要領実施に向けて、新たな教育課程の編成ができている。 ☆S1:1月進研模試3教科の平均点全国偏差値48以上。 ☆S2:1月進研模試3教科の平均点全国偏差値48以上。 ☆S3:11月進研模試5教科全国偏差値48以上20名以上。 大学入学共通テストを利用した国公立大現役合格者25名以上。	・必要に応じて、研修会を実施する。 ・シラバス進捗状況を定期的に確認する。 ・新入試対応の模試分析を行い、情報を共有する機会を設ける。 ・新しい教育課程の編成について、情報を収集し原案を年度内に完成させる。 ・校外模試の結果を定期的に確認・分析し、学力の定着状況を把握し、改善を図る。				
情報収集、情報発信の充実	学校の魅力、生徒の活動状況を計画的に情報発信する	【総務】 <ホームページの運用> ・更新件数は大幅に増加している。(更新件数:平成29年度194件→平成30年度675件→令和元年度956件) ・アクセス数は大幅に増加している。(平成29年度約297,400件→平成30年度約233,213件→令和元年度427,136件) <季刊倉西・倉吉西高通信の刊行> ・時期をずらして内容を考慮し、年4回ずつ刊行している。 <ミッタシステムの運用> ・保護者の登録率は96%。(登録切れの保護者への再登録、未登録の保護者への呼びかけを年3回行った。) <中学生体験入学・中学校での高校説明会> ・体験入学では、2日間で348名(平成30年度284名)が参加し、99%が「参考になった」と回答。 ・各中学校で3年生への説明会を実施した。(6月)	<ホームページの運用> ・生徒の活動や必要な情報が適宜、掲載されている。 ・担当した行事、部活動の様子を教職員が速やかに掲載している。 ・学校の情報がわかりやすく伝わるようにする。 <季刊倉西・倉吉西高通信の刊行> ・保護者に学校並びにPTAの活動や方針等を適宜、伝える。 ・発刊時期を考慮し、保護者が学校の様子を理解している。 ☆季刊倉西4回、倉吉西高通信4回刊行。 <ミッタシステムの運用> ・全保護者が登録し、漏れなく緊急連絡を行うことができる。 ☆保護者の登録:100%。 <中学生体験入学・中学校での説明会> ・中学生や保護者が倉吉西高の情報を持っている。 ☆中学生体験入学の参加者アンケートの満足度:90%以上。	<ホームページの運用> ・内容を考慮し、保護者等が求める情報を載せるようにする。 ・緊急の連絡など、速やかに情報発信する。 ・各分掌、ステージ、部活動など、担当した学校行事、部活動の様子を速やかに掲載できるように、適宜、担当教職員への提示の呼びかけを行う。 <季刊倉西・倉吉西高通信の刊行> ・季刊倉西では学校から保護者宛のメッセージを、倉吉西高通信ではPTA活動を中心とした内容とし、年間計画を立て保護者にわかりやすい紙面とする。 ・季刊倉西を見やすい印刷にし、確実に保護者に届くようにする。 <ミッタシステムの運用> ・未登録の保護者への登録呼びかけを行う(4月・7月・12月の3回)。 <中学生体験入学・中学校での説明会> ・チャレンジグループ活動の発表や案内など、生徒の活動によって倉吉西高の魅力が伝わるようにする。 ・施設、部活動見学の方法を考慮し、学校の様子がよくわかるようにする。 ・体験入学は保護者にも参加を呼びかける。				